

自分を見つめ直す良い機会に

経営情報学部4年 木下 拓海

私は大学3年生の6月、ナビサイトに登録することをきっかけに就職活動を始めました。その当時、大学を卒業してからやりたいことが明確ではありませんでしたし、ましてやコロナ禍であり、先行きが不安でした。そんな私が納得のいく形で就職活動を終え、感じることは、就職活動は「自分を見つめ直す良い機会」であるということです。

自分を見つめ直す機会は就職活動を行う際に必ずやってきます。俗にいう自己分析というものです。就職活動では企業・業界研究、面接対策など、やるべきことがたくさんありますが、自己分析が1番大切であると私は考えています。少なくとも私が選考を受けた企業様すべてに面接がありましたし、面接で自己表現をするために自己分析は必要不可欠だからです。では、自己分析とは何か。簡単に言うのであれば、「長所・短所」とあると私は考えています。私も自分の長所や短所は何かと考えることから始めました。それらの長所・短所を自分の過去の経験（アルバイト、部活動、ゼミ活動など）に関連する形で面接の際に伝えることがとても難しいです。これまでの学生生活ではテストで回答を記入する、つまり書くという方法で自己表現してきたと思います。しかし、面接の場では話して自己表現することが必須になります。こればかりは行動して話すスキルを身に付けるしかないと考えています。実際に私は9月から業界・

業種問わず20社以上のインターンシップに参加し、履歴書の作成や面接を繰り返したことにより、「なぜ長所・短所と言えるのか」まで突き詰めることができました。また、オンラインであったとしても他大学の学生との出会いが自分の長所や短所を見出すきっかけになると思います。ぜひ、勇気を出してインターンシップや選考を受け、悩んでいることがあるのであれば家族や友人、キャリア支援課などに相談してみてください。遠慮しがちな私でしたが勇気を出して相談したことにより、また次の行動を起こすきっかけになっていましたし、この繰り返しの物流業界に就職したいという信念を持つことができたと思っています。

今回、私の就職活動を通して多摩大学の学生の皆様に伝えたいことを執筆致しました。就職活動は社会を相手に活動するので、いくら自己分析や面接練習をしてもなかなかご縁に恵まれないこともあるかもしれません。でも、自分を見つめ直し努力してきた過程は事実です。ぜひ、前を向いて、自分のペースで納得がいくまで続けてほしいと思います。これから就職活動を行う学生、現在就職活動をしている学生の背中を押すきっかけに、また、すでに就職活動を終えている学生が再度、自分を見つめ直そうと思って頂けるのであればとても嬉しいです。最後までお読みいただきありがとうございました。



アルバイト先のカレー屋さん



就職活動中に食べた駅弁

自己成長から自己実現へ

グローバルスタディーズ学部 4年 鹿島 旭恵

私は「多様な考えを理解できるようになること」を目標に SGS での 4 年間で過ごしました。グローバル化が進み、より一層柔軟な考え方が求められる時代が来ると考え、少しでも相手の考え方を理解できるようになりたいと思ったことがきっかけです。目標達成のために、大学生活の中で、以下の 2 つのことに取り組みました。

1 つ目は「沢山の友人を作る」ことです。その中でも特に、留学生との交流に力を入れ、様々な国籍の友人を作りました。入学当初は、全く英語が話せませんでした。ですが、諦めず毎日留学生の輪の中に飛び込んでいきました。毎日一度は留学生と会話をするという小さな目標を立て、登下校やランチを共にしていくうちに、少しずつ英語力を上げることができました。これにより、彼らの国の文化や考え方を学ぶことができました。日本生まれ日本育ちの私にはなかった価値観を得たことにより、目標である多様な考えを理解できるようになることへの一歩となりました。また、大学 1 年生より Realize サークルに所属し、保育園児や高校生を対象に楽しく英語を学ぶイベントを企画・運営しました。そこでは、切磋琢磨し、互いを高めあえる仲間づくりや、困難に陥った時に助け合える友人を作ることができました。私はこれまで、友人に対してどこか一線を引いて接していた部分がありましたが、このような素晴らしい友人と出会い、自分の思いを真っ直ぐぶつけられるようになりました。それにより、相手の考えや思いをより深く知ることができました。

2 つ目は「ボランティア活動に積極的に取り組む」ことです。大学 1 年生より学内外のイベントを企画・運営する組織 EPU に所属し、2 年生で代表を務めました。学内イベントでは、参加人数 100 名の Winter Party などのイベントを企画・運営しました。学外イベントでは、七夕祭りや湘南台祭りなどの地域のイベントの実行委員として活動しました。様々な方との交流により、学内や地域の活性化を図るだけでなく、人の輪を広げることができました。代表としては、2 年生で経験の浅い中務めたため、理想とする組織運営はできませんでした。ですが、安田学部長や同期の仲間、学生課の皆さんに支えられ、最後まで務め上げることができました。初めは、一人で全てをやらねばという強い使命感で務めていました。ですが、代表を務める中で、人に頼ることは恥ずかしいことではないことや人を信頼し、いかに上手く人を頼るかが代表としての鍵であることに気づくことができました。

「多様な考えを理解できるようになること」という目標を追い続けたことで、柔軟な考えや多角的な視点を身につけ、自己成長することができました。これにより自分自身のビジョンを見出すことができました。私は、大学 4 年間上記の活動のみならず、インターゼミやオープンキャンパススタッフ、ピアサポーターなど様々な活動に参加してきました。このように充実した学生生活を送ることができたのも、ひとえに教職員の方々や支えてくれた友人、そして私のやりたいことを全てやらせてくれた父のおかげです。感謝を忘れず、ビジョンである「ダイバーシティ&インクルージョンの実現」に向けて自己成長を重ね、自己実現できるよう邁進してまいります。多摩大学で一番輝いていた人として卒業できるよう、残りの学生生活も勉学や遊びに全力で取り組んでいきます。



4 年間一番近くで支えてくれた友人



留学生との写真



学内で開催した Winter Party

変化した 4 年間

グローバルスタディーズ学部 4年 林 陽人

SGS には自分を变える機会が多く存在し、それを自分のものにし、変化・成長ができた 4 年間でした。私を変えてくれた多摩大学での経験は大きく 2 つあります。

まず 1 つ目が「海外での経験」です。私は英語教師になることを目標に SGS に入学を決めました。入学をしてから半年が経ち、ベトナムでの海外研修に参加しました。海外の世界遺産を訪れたことや現地の学生と交流したことなど様々な経験をしましたが、その中でも HIS ハノイ支店で働く日本人のお話は特に印象的でした。その時から私の夢は旅行業界で働くことに変化しました。この海外研修では私の消極的な部分が原因で、現地の学生とあまり交流できませんでした。英語力の向上だけでなく、消極的な部分を改善するために参加したのがカナダへの短期留学です。1 ヶ月という短い期間ですが、消極的な自分を改善するためにクラスメイトに積極的に自ら話しかけるようにしました。カナダでは現地の大学生の勉強に対する熱量や姿勢を見て、負けず嫌いの私は帰国後、勉強に力を入れました。何度か成績優秀者に選ばれるほど熱量を持って自分の興味あることを学ぶことができました。その結果もあり、多摩大学を代表して日中友好協会の中国研修にも参加させていただきました。1 週間ではありましたが、中国の歴史や文化だけではなく、中国が今急速に発展している理由を知ることができました。様々な海外に訪れ、グローバルな視点から日本を見ることができたのは多摩大学ならではの経験ができたと思います。

もう 1 つは「リーダーとしての経験」です。今までの人生の中ではリーダーとして何かをするということはありませんでしたが、カナダ留学をきっかけに少しずつ自分に自信を持ちリーダーの経験を 2 度しました。まず私は英語教室を開催するサークルの代表を務めていました。大学と以前から交流のある高校の英語部との英語教室や藤沢市の保育園の子ども達とは大学の体育館を借り、英語教室を開催しました。自らリーダーになると立候補するほど自分に自信を持てるようになったことは高校生の頃の自分とは大きな違いだと思います。もう 1 つリーダーを担っているのがオープンキャンパスのスタッフです。こちらはありがたいことに職員の方に任命していただきました。まだ統率力やリーダーシップが充分にあるとは思いませんが、こうして取り組める環境があり、取り組みが評価される大学に入れたことはとても嬉しく思います。

多摩大学にはなりたい自分になれる機会がたくさんあり、環境も整っています。その機会を自らの手で掴み、行動することで変換することができた 4 年間だったと実感しています。素晴らしい環境、機会を与えてくださった教職員の皆様への感謝を忘れず、残りの学生生活を過ごしていきたいと思えます。



カナダ留学のクラスメイト



代表を務めたサークルの仲間達